

## 家庭型保育に関する研究 V

—「気になること」・「特に配慮していること」の検討から—

○小野壽美 榎田紋子 伊志嶺美津子 田島恵子

(三保小児科心理研究室) (湘南短期大学) (女子美術短期大学) (葛飾区家庭福祉員の会)

## 1. 目的

家庭福祉員制度(東京都)は、保育園に入園できなかった場合の補完を主な目的として始められたが、葛飾区家庭福祉員の会が実施している「利用者アンケート」によると、この保育を選択した理由は、「少人数で家庭的保育だから」が、平成9年度以降40%を超えて最も多く、「他の保育施設に入れなかったため」を上回っている。家庭型保育は、未満児待機数の増加、核家族化、少子化による育児支援の必要性などを背景に、多様な保育ニーズに対応する保育資源の1つとして見直されてきている(福川ら,1995年他)。本報では、東京都葛飾区家庭福祉員による受託児の定期的な保育記録から、育児の中で、親と保育者のそれぞれが「気になること」、保育者が「特に配慮していること」の内容を検討し、家庭型保育について考察する。

## 2. 方法

平成10年度中に17名の保育者により受託された乳幼児52名(男児:29名,女児:23名)、延べ116名の個人保育記録から内容を分析する。記録:保育者が受託児について、生後3カ月から2歳までは3カ月毎、それ以降は6カ月毎に記入。

(食事、睡眠、排泄など1日の生活と遊びなどの状況、受託時・帰宅時の様子、親と保育者の各々が「気になること」、保育者が「特に配慮していること」などで構成された個人記録票と「乳幼児発達スケール」)

## 3. 結果と考察

## 1) 親が「気になること」

「気になること」があるのは、全体の67.2%で、105件、1人の平均は1.3件となっている。内容を項目別に

分けると、「身体・生理」が最も多く(30.5%)、「食事」(22.9%)、「心理・行動」(13.3%)が続く。内容を表5に例示したが、「身体・生理」に関する訴えは1歳を超えるまで各月齢で多く出されている。これを当小児科における乳幼児健診の発達相談を受診した12カ月までの子どもをもつ親の相談内容(発達心2000)と比較すると、家庭児では、0歳前期は「身体・生理」が最も多いが、後期に入ると、「心理・行動」が急増し、「身体・生理」を上回る。その内容は、「指しゃぶり」や「後追い」など、発達上その月齢に現れ得る行動を悩みとしていることも多く、その他、背景に親自身の育児に対する不安が関係していると感じられるものもあり、受託児との違いが見られる。「食事」は、受託児では、授乳から離乳食、幼児食へと短期間に形態や食事行動が大きく変化する中で、「断乳」や「遊び食べ」、「ムラ喰い」、「偏食」などについての訴えが出ている。家庭児においても同様の傾向が見られた。「親自身のこと」は、受託児の親では、就労等で十分な世話ができていないなど、主に子どもへのかかわり不足について訴えている。これに対して、家庭児では「遊び方、遊ばせ方がわからない」、「ぐずったとき放っておいてよいか」、「しつけに自信がない」など、具体的育児方法で悩む姿が見られる。

以上のような、受託児の親が「気になること」と、小児科での相談内容の違いは、家庭型保育では、親が育児上の悩みを日常的にいつでも保育者に相談できることで心理的なサポートが得られること、他の受託児の成長過程を継続的に見ることができ、保育者との話し合いを通して子どもの発達を理解したり、保育者の子どもへの接し方をモデルとして自分の育児に活かせる、といったことが要因として推察される。

表1:対象児内訳(人)

月齢	人数
0:3	7
0:6	15
0:9	19
1:0	16
1:3	8
1:6	9
1:9	7
2:0	11
2:6	11
3:0	9
3:6	4
合計	116

表2:「気にしていること」・「特に配慮していること」(全対象人数116名) (%)

	親が気にしていること	保育者が気にしていること	特に配慮していること
有り人数	78 (67.2)	74 (63.8)	76 (65.5)
総件数	105	103	120
1	身体・生理 (30.5)	身体・生理 (32.0)	心理・行動 (29.2)
2	食事 (22.9)	心理・行動 (23.3)	言葉 (16.7)
3	心理・行動 (13.3)	食事 (19.4)	食事 (15.8)
4	親自身のこと (6.7)	友だち (5.9)	運動・発達 (10.0)
5	運動・発達 (4.8)	言葉 (4.9)	その他 (9.2)
6	排泄 (4.8)	その他 (4.9)	身体・生理 (7.5)
7	その他 (4.8)	運動・発達 (3.9)	友だち (6.7)
8	睡眠 (3.8)	親自身のこと (3.9)	排泄 (3.3)
9	友だち (3.8)	排泄 (1.9)	睡眠 (1.7)
10	言葉 (2.9)	睡眠 (0)	親自身のこと (0)
11	きょうだい (1.9)	きょうだい (0)	きょうだい (0)

表3:「気になること」の有無

	人数	%
保育者、親ともに無	18	15.5
保育者は有・親は無	20	17.2
保育者は無・親は有	24	20.7
保育者、親ともに有	54	46.6
計	116	100.0

表4:「気になること」の内容一致率

	人数	%
一致	4	7.4
一部一致	13	24.1
一致せず	37	68.5
計	54	100.0

2) 保育者が「気になること」・親との比較

保育者が「気になること」があるのは、全体の63.8%、103件、平均1.4件。これは親に比べ割合はやや低く、件数にほとんど差はない。「身体・生理」(32.0%)、「心理・行動」(23.3%)、「食事」(19.4%)の順が多い。「身体・生理」は0歳期に件数の約7割を占め、“身長、体重が少ない”、“しっしん”、“便秘ぎみ”など内容は多様で、「心理・行動」は、6カ月以降全ての月齢で出ており、1歳を過ぎると“物の取り合いで注意すると大泣き”“歩きたがらず抱っこを求める”など意志表示に関するものが目立つようになる。

「気になること」の有無を、保育者と親で比べると一致率は46.6%と低い(表3)。また、両者が「気になること」があると答えた場合の内容の一致率は、一部一致を含め30%強に留まっている(表4)。その理由としては、親の「気になること」の中に、きょうだいとの関係、就寝時のくせや生活リズム、祖父母のことなど、家庭内で起こる問題が含まれ、保育者からは、子ども同士のかかわりといった保育中のことが出されているなど、生活場面の違いによるものがあることと、親が気になることであっても、保育者にとっては発達的に理解可能で、対応の見通しがつき、問題と捉えないうちに一致しないということが考えられる。

3) 保育者が「特に配慮していること」

「特に配慮していること」があるのは、全体の65.5%、120件、平均1.6件で、「心理・行動」(29.2%)が最も多く、「言葉」(16.7%)、「食事」(15.8%)、「運動・発達」(10.0%)が続く。「心理・行動」は、0歳期には、スキンシップや、表情や発声に対する働きかけのほか、

分離不安や探索活動への配慮、1歳を過ぎると自己主張や第二子誕生による不安への対応などが出されている。その中には、安心感や信頼関係の形成を基本に、積極的、応答的かかわりや、家庭環境も踏まえた上で接し方を考慮している例もあった。「言葉」は、乳児期から意識的な声かけ、指さしへの応答、絵本の読み聞かせなど、言葉の育ちを促すかかわりの工夫が見られた。「運動・発達」は、1歳3カ月まで各月齢で記述があり、寝返りからハイハイ、歩行に至る過程で、自発的な運動が十分にできるようにスペースの確保や安全への配慮、促しなどが見られる。

保育者は、月齢やそれぞれの子どもが現す行動に応じて、発達援助や気になる点をふまえた個別的配慮を行っていることがわかる。

4. まとめ

家庭型保育は、少人数の家庭的な環境であるため、特定の人とのより緊密で応答的かかわりが必要とされる3歳未満児にとって、安心して生活できる保育形態の1つであると考えられる。受託時から帰宅時まで、多くの場合一人の保育者が子どもを保育することで、家庭との連携が取りやすく、親子の関係性や子どもの生活全体を継続的に把握することができ、個々の子どもの発達と状況に応じた保育が可能である。その中で保育者は、親の育児上の悩みに対する相談、援助といった支援的役割も担いながら、同時に保育上の様々な問題に対応していくことが求められている。地域によっては家庭福祉員が組織的に連携し、保育内容の向上、均一化に向け活動を行っている。このような取り組みが公的に保障され、更に充実していくことが望まれる。

表5: 親が「気にしていること」・月齢別 (記述は一部)

	0:3	0:6	0:9	1:0	1:3	1:6	1:9	2歳	3歳
身体・生理	・アトピー ・髪を生え方 ・O脚 ・鼻炎 ・体重増えて欲しい ・便秘	・アトピー ・髪を生え方 ・体重増えすぎ ・抗生物質で下痢	・歯の生え方(2) ・髪を生え方 ・持病のこと ・O脚か? ・風邪長引いている ・気管支炎 ・色白で肌が白い	・アトピー ・歯の生え方(2) ・持病のこと ・健康状態 ・風邪をひきやすい ・熱を出しやすい	・体が細い ・身長が低い	・アトピー		・風邪をひきやすいのはビタミン不足か? ・太り気味	・太りすぎ ・喘息で発作が心配
食 事	・離乳食 ・ミルクの飲みが悪い	・離乳食の飲みこめず途中で終了 ・ミルクの量減少(2) ・母乳続けたい ・ミルクの飲み悪い	・断乳したいが夜中、起床時泣しがる	・偏食(2) ・少量なのでミルクが多くなる ・量が減った ・遊び食べ ・ムラ喰い		・少食(2) ・偏食 ・朝食、夕食をあまり食べない		・少食 ・間食多く食事量少ない ・体力づくりに食べて欲しいが嫌がる ・辛い物、酸っぱい物が好き	・偏食 ・咀嚼苦手
心理・行動		・少しの音でも怖がる	・ほとんど発声なく、長泣きもしない ・バイバイしない	・気に入らないとのけぞり、あばれる	・よく泣く ・赤ちゃん返り	・何にでも関心高く動き回るので落ち着いて欲しい		・帰宅時抱っこを求め歩かない ・姉の物を壊す ・末子でわがまま ・兄とケンカで喧嘩、唾吐く	・乱暴で言うことをきかない ・姉の物を壊す ・兄とケンカ ・主張強く親の言うことを聞かない
親自身の問題	・休日にコミュニケーションをとりたい		・仕事をもっていて手抜きかかわりそうと反省		・夜勤の時生活リズム崩れ子が犠牲になっている ・よく動くので疲れる		・母(妊娠)つわりで食事が作れない	・泣くのは男らしくないと気になる	・祖母の看病で忙しい